

老健にいがた

2024. 2 Vol.54

第54号



てらどまり ご利用者様作品です

目次

巻頭言	1	協会だより	10
特集①「第34回全国介護老人保健施設大会」に参加して	2～3	こんなことやってます!!～会員施設の取り組み～	11～14
特集②「第34回全国介護老人保健施設大会」演題発表より	4～7	みんなの広場	15
研修会報告	8～9		

巻頭言

若年性認知症について

常盤園

佐野 英孝



介護保険の被保険者は、65歳以上の方（第1号被保険者）と、40歳から64歳までの医療保険加入者（第2号被保険者）に分けられます。第1号被保険者は、病名を問わずに要介護認定または要支援認定を受けたときに介護サービスを受けることができます。第2号被保険者は、加齢に伴う疾病（特定疾病）で要介護（要支援）認定を受けたときに介護サービスを受けることができます。

特定疾病としては以下があります。

1 がん（末期） 2 関節リウマチ 3 筋萎縮性側索硬化症 4 後縦靱帯骨化症 5 骨折を伴う骨粗鬆症 6 初老期における認知症 7 進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症およびパーキンソン病 8 脊髄小脳変性症 9 脊柱管狭窄症 10 早老症 11 多系統萎縮症 12 糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症および糖尿病性網膜症 13 脳血管疾患 14 閉塞性動脈硬化症 15 慢性閉塞性肺疾患 16 両側の膝関節または股関節に著しい変形を伴う変形性関節症

この中で度々経験するのは6の初老期における認知症の方です。当園は併設の白根緑ヶ丘病院に認知症対応病棟、認知症疾患医療センターがあるために外来、入院で初老期における認知症の方を診察する機会があります。

厚生労働省では、65歳未満で発症した認知症を若年性認知症と定義しています。このうち40～64歳に生じた認知症を「初老期認知症」といいます。初老期認知症は若年性認知症に含まれるので、最近は初老期認知症の方も若年性認知症という呼び方で呼ばれることが多いと思います。老年期の認知症に比べて働き盛りの会社員、主婦の方が認知症になるという事は御本人にとっては大変つらいことですし御家族にとっても大きな不安を持たれると思います。お子さん方は高校、大学の受験生であったり、結婚前である事も多く、御本人の治療、ケアも大切ですが御家族のフォローも大切になってきます。また若年性認知症のケースは認知症であると御家族はなかなか気付きににくく受診、診断が遅くなる場合も結構見受けられます。御家族の中には御本人に、「それさっき言いましたよね」「何で同じ間違いを何度も繰り返すの」「ちゃんとしなければだめでしょう」とついついつい口調で言ってしまう事もあります。それが後々になって認知症とわかると、「何であんなにきつい口調で言ってしまったのだろう」と後悔する事にもなります。

現在は若年性認知症であっても社会の理解が深まり、会社では仕事の内容を御本人が出来るものに変えるよう配慮したり、社員の声掛け、援助で定年まで働いている方も増えてきています。昔は認知症と診断されると会社から「認知症になったのであれば仕事は無理ですね」と一方的に解雇され、とても悲しい思いをしたという話をよく聞きました。

私は認知症になられてもその方の残された能力を見出してあげれば出来る仕事は沢山あると思います。認知症という病気を特別なものと思わないで周囲が暖かい気持ちで対応することが大切だと思います。

「第34回全国介護老人保健施設大会 宮城」に参加して

介護老人保健施設 楽山苑 介護職員 水科 智

今年度の全国介護老人保健施設大会は、11月21・22日に宮城県仙台市の仙台国際センターにて開催されました。両日とも天気に恵まれ、仙台市の11月22日の最高気温は16.8℃と、例年になく暖かさでした。新型コロナウイルスの5類移行に伴い、全国から多くの施設が参加されていました。

演題発表プログラムでは「リスクマネジメント」や「在宅支援と地域連携・地域包括システム」、「人材」、「認知症」など、様々な発表がありました。私は、「リスクマネジメント」と「認知症」を中心に聞いてきました。ある施設では、当苑と似たヒヤリハットの事例があり、記載内容が漠然とした内容にならないように、一連のマニュアル化がされていました。今後は当苑でも参考にさせて頂きたいと思います。

その他に福祉・医療機器展に参加しました。私が興味を持ったのは、腰の負担を軽減するアシストスーツです。実際に使用してみて、柔軟で軽いため疲れにくく、体にかかる負担の軽減がされていると感じました。介護現場では腰痛になるリスクが高いので、こういったものがあれば、より腰痛のリスクを軽減できると思いました。

1日目の終わりに懇親会に参加し、他県の職員と交流ができました。色々な話を聞くことができ、良い思い出になりました。2日目には、サンドウィッチマンのトークショーもあり、始まる1時間前から行列になっていました。会場に入れなかった方は、別の会場にて中継で見ることができ、参加者全員が楽しめるようになっていました。

以上のように全国大会にて、多くのことを学ぶことができました。これらで得たことをご利用者の自立支援や日々の業務に活かしていきたいと思います。



仙台国際センターの中には、美しい仙台七夕飾りが飾られていました。



ROKENくんの
信長・濃姫バージョン。
来年度の開催地である
岐阜からの参加です。



宮城県介護老人保健施設協会の大会スタッフ様です。
素晴らしい大会を開催していただき、心から感謝申し上げます。



サンドウィッチマンの
トークショーの行列。
最後尾のプラカードへ
続々と人が集まりました。

変わっていく事、変えていく事、変わらない事

介護老人保健施設 やまぼうし 介護士 伊藤 香織

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した今年度の全国大会は、晴天の中、紅葉が美しい仙台市での2日間でした。

開会式から会場いっぱいの参加者、演題発表の各会場の熱気、地元名物でおもてなし頂いた懇親会。また、新潟県からも7施設・11演題の参加があり「コロナ後」をしっかりと見据え歩き始めている周囲の動向を実感し、身の引き締まる思いがしました。

幾つかの演題や講演会を拝聴する中で、やはり“介護DX”“ICT”“人材確保”というテーマは介護業界の喫緊の課題として、多くの研究、事業、成果が報告されていました。

記録のデジタル化、音声入力の活用や夜勤者の肉体的・精神的負担を軽減する見守りシステム、睡眠パターンや排泄のタイミングのデータ化などICT導入による業務の効率化については様々な事例を知ることが出来ました。また人材確保対策のシンポジウムにおいては、北海道の介護老人保健施設アメニティ帯広で行われている、介護助手制度モデル事業の報告と、日本介護福祉士会が長年の調査・研究に基づき開発した国際介護人材支援のための学習コンテンツの紹介が興味深く、これからの時代の変化に対応していく道筋を、惜しみなく示してくれた大会だったと思います。

開会式の直後に、厚生労働省老健局長の間 隆一郎氏による特別講演が行われましたが、そこではすでにポスト2025年に向けた高齢者介護の姿が語られていました。要介護人口が増え、逆に人材確保が難しくなっていく中において専門職が専門的な仕事に集中できるためにはICT導入や介護ロボット、介護助手の活用等は必須で、その支援策は報酬改定、処遇・環境改善などのあらゆる方面から今後も検討されていくとのことでした。

その専門職がケアを提供する時に大切にしてほしい「当事者目線」について印象的なお話があったのでご紹介させていただきます。

「残存機能を活かしながら時間をかけて自分で服を着る」か、「自分の選んだ服を着せてもらって一秒でも多く外に出かける」か、どっちが正解かはそのご本人が決めるのではないか。

何が変わっても変えてはいけない、人が生きていく事に関わりあう私たちの仕事の基本ではないかと考えさせられました。

最後になりましたが、今大会の運営にあたった関係者の方々、また日々ご苦勞をされている県協会の皆様に、貴重な機会をいただいたこと深く感謝申し上げます。

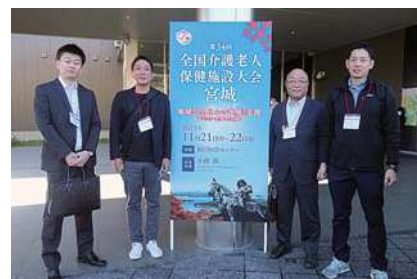


「第34回 全国介護老人保健施設大会 宮城」に参加して

介護老人保健施設 マチュアハウス中条 理学療法士 大久保 樹

令和5年11月21日～22日にかけて、「第34回 全国介護老人保健施設大会 宮城」が開催されました。大会テーマは、「地域共生社会の復権と老健 ～デジタル化時代の絆～」でした。シンポジウムや演題発表で多く語られたのが、介護DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入やICTの利用促進により、業務改善と効率化・生産性向上を図ったものでした。介護業界では、慢性的な人材不足が続く中、介護現場に変革をもたらす一助になると感じました。

令和6年度には介護報酬改定を迎えます。老健には、更なる在宅生活支援の発展が求められます。そのような状況の中、当施設が約5年半、全力で在宅生活支援に取り組んだ経過と結果を、今大会で演題発表させて頂いたので、ご紹介します。



『地方・単独型の老健における在宅生活支援』

【はじめに】

平成30年度介護報酬改定により、介護老人保健施設（以下、老健）では、在宅復帰・在宅療養支援等指標（以下、指標）が導入された。当時、基本型であった当施設は、約5年半で超強化型へ移行した。超強化型へ移行するまでの当施設の取り組みや経過、今後の課題について、報告する。

【取り組み・経過】

平成30年頃の当施設は、老健の役割である在宅生活支援を掲げていたが、実態は、入所相談の多くが長期入所を望むものであり、独居高齢者や老々夫婦で在宅限界を迎えた90歳以上の超高齢者も多くいた。そのような状況であったため、当施設を終の住処と捉えている利用者や家族も少なかった。さらに、職員にも、在宅生活支援という考えが十分に浸透しておらず、自宅で生活できなくなった方に対して、介護や世話をする場所という認識であった。

そこで、平成30年度の介護報酬改定を受け、老健としての生き残りをかけ、職員が明確に在宅生活支援を意識する老健へと舵を切るため、「在宅支援プロジェクトチーム（以下、チーム）」を組成した。チームの役割は、「施設全体で意志統一を図り、多職種協働を推進すること」である。

まず初めに、施設の現状把握から始めた。毎月、指標の点数を掲示し、見える化することで、全職員が常に施設の現状を把握し、意識するようにした。また、職員に対して、チームメンバーが中心となり、老健の機能や役割、介護報酬の仕組みを説明した。そして、利用者や家族に対して、

支援相談員だけでなく、多職種でのインテークを丁寧に行った。家族からは、「やっと入所できるのに、今後のことなんて考えられない」といった意見も多く聞かれたが、その都度、利用者にとって適切と思われる転帰先について、根気よく説明を続けた。

そのような取り組みを続けていく中で、徐々に、往復利用を前提に入所する利用者、グループホームやサービス付き高齢者向け住宅への入居を希望する利用者、特別養護老人ホームの申請をしてから入所する利用者が増加していき、在宅復帰率やベッド回転率は向上していった。

2018年4月時点では基本型であったが、同年11月からは、加算型へ移行した。次の取り組みとしては、在宅強化型へ移行する足固めとして、週3回以上の個別リハビリテーションの実施を目標とした。それまで在籍していた7名のリハビリ専門職に、新たに2名を加え、9名体制としたことで充実したリハビリテーションの要件を満たすことが可能となった。そして、2021年6月より、在宅強化型へ移行し、現在まで維持してきた。2023年10月には、超強化型に移行している。

【まとめ】

当施設が、本格的に在宅生活支援に取り組み始めて、約5年半が経過した。当初は基本型であった報酬体系を、超強化型にまで移行できた理由は、職員意識の変化と、インテークの充実だと言える。更に在宅生活支援機能を発展させ、時代と地域特性に合わせた柔軟な支援体制を構築し、選ばれる施設であり続けたい。

以上が発表内容です。座長から以下の質問を頂きました。

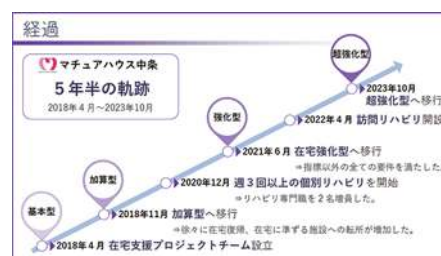
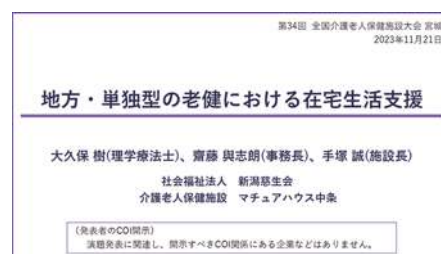
問：インテークには実際にどの職種が参加しているか？また、その職種はいかにして選定しているか？

答：相談員が中心に行っているが、リハビリ専門職、介護職が参加している。

選定は、利用者の状態・ニーズによって、選定している。

問：情報共有に使用しているツールがあれば教えてほしい。

答：カンファレンスノートや口頭など、まだアナログな方法で行うことが多い。それ故に、必要な情報が行き届いていないこともある。今後も大きな課題となる。



今回の全国大会は、約4,000人が参加した盛大な大会となりました。多くの参加者からの熱意を感じ、今後もより一層、努力しなければならないと感じました。最後に、今大会のように盛大で素晴らしい大会運営をして下さった関係者の皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

「苦痛のない排便をめざして」 ～足台を使用した姿勢へのアプローチ～

介護老人保健施設 優和の里 介護福祉士

渡辺輝美子 羽田 雅樹 上野 芳幸

<はじめに>

便秘は個人差が大きく、一日排便がないだけでも便秘と感じる人もいれば、数日出なくても違和感を覚えない人もいます。また、スムーズに排便できない症状も便秘に含まれる。

優和の里では排便がない場合、坐薬、下剤、摘便で対応しているが坐薬や摘便の対応に苦痛を訴える利用者も多い。

その様な利用者が入浴時、シャワーチェアに座り前傾姿勢で洗髪、洗身中に無意識に排便されている場面がみられた。

今回、便秘や排便困難がある利用者に対して、排便姿勢を見直し、援助を行った結果を報告する。

<方法>

対象者は便秘4日目、排便困難がある利用者5名としました。

- 1) 足台を使用した排泄姿勢のポスターをトイレに貼り対象者、職員に周知する。
- 2) 対象者は排泄時に使用する。
- 3) 足台使用時の排便の有無。

排便記録用紙を作成し、対象者の様子、排便間隔、坐薬の使用状況を記録する。

- 4) 排便記録からデータを収集し、足台使用の前後を比較する。

<結果と考察>

今回、足台を使用し効果が見られたB様D様E様は症状から「排便困難型」の便秘に該当するのではないかと考える。

足台を使用し排便姿勢を見直した事で使用前は硬便で少量だった排便が、一度に中等量の排便がみられ、自己摘便がなくなり、りきむ時間の短縮、スムーズな排便になった。

また、E様は足台を自ら使用する事が見られたのは、楽に排便が出来る事を認識できたからなのではないかと考える。

A様、C様は使用前とほとんど変化が見られなかったのは、効果のあった3人とは便秘の原因に違いがあったと思われる。慢性便秘の殆どが機能性便秘と言われる。

排便の回数や便量の減少にて便が腸内に停滞したため便秘になる「排便回数減少型」。

便意はあるが便が直腸にあるにも関わらず便が硬く直腸から肛門にかけての筋肉の協調運動に問題があり快適に排便できず残便感を生じる「排便困難型」の便秘がある。

洋式トイレに普通に座ると恥骨直腸筋が少し緩むが、直腸と肛門がくの字に曲ったままなので便が通りにくく排便しにくい。

豊原氏によると排便困難型の便秘の対策は肛門近くにある恥骨直腸筋を緩められない事が原因

になっており、この恥骨直腸筋を緩められるようにする事である。また、和式トイレでしゃがんだ姿勢「蹲踞位」が最も便がスムーズに排便される理想的な姿勢だと述べている。※1

＜まとめ＞

足台を使用し排便姿勢を見直す事で主に排便困難な症状がある利用者には、効果が見られ坐薬の使用や摘便をする場面が減った。しかし、すべての便秘症状に効果が見られたわけではない。

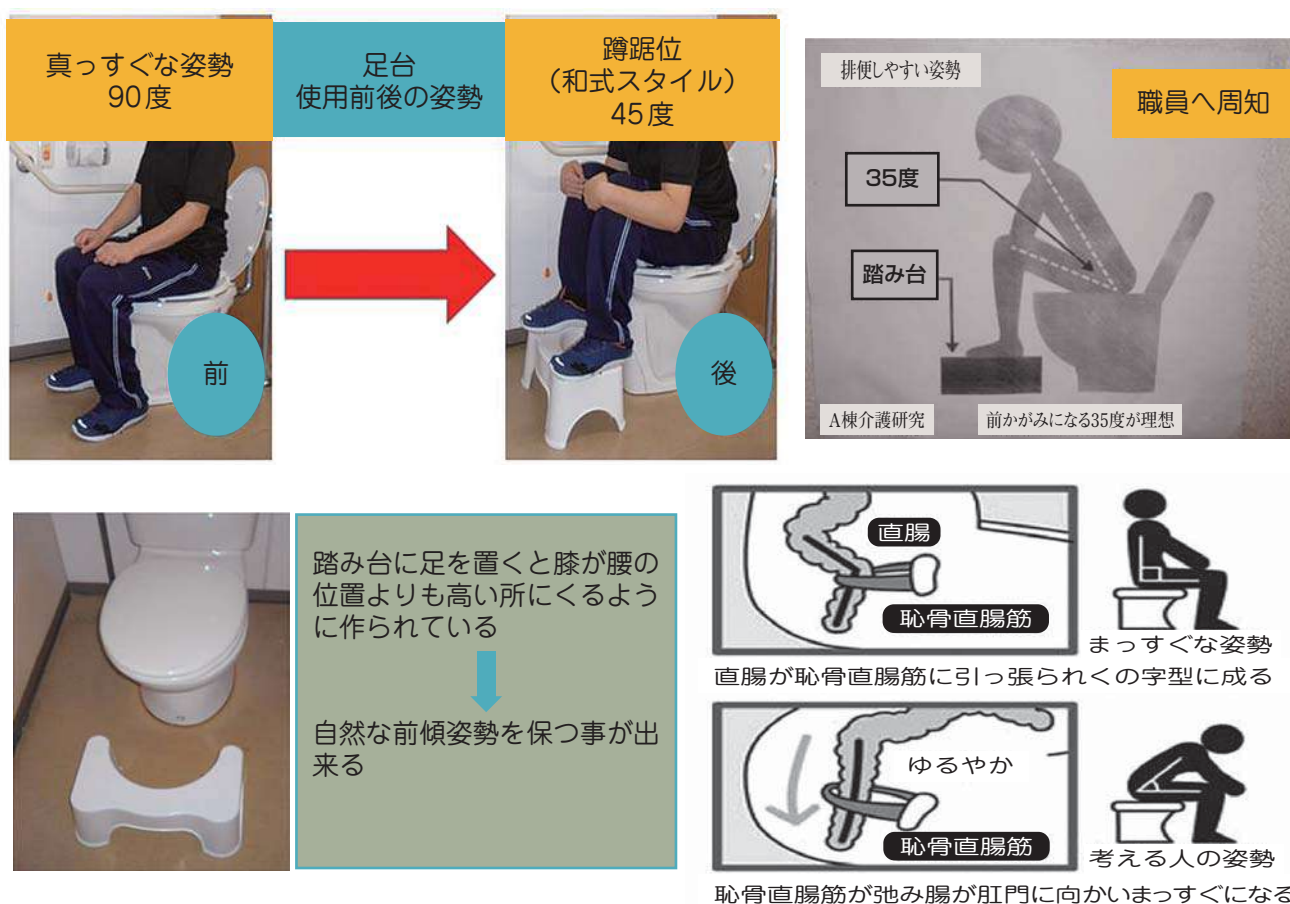
便秘対策には利用者個々によって便秘の原因や症状が異なるため、まずはどのタイプの便秘か見極める事が重要となる。

介護スタッフはもっとも長い時間、利用者に関わっている。排泄時の様子、排便の状態を通し利用者の便秘の情報を得る事ができる。

今後は利用者の便秘の状態を把握し、利用者に適した便秘対策を医療スタッフと連携していきたい。

以上が発表の内容です。

- 引用文献※1 臨床すべてに役立つ！看護専門情報誌 Expert Nurseみんな気になる！
排泄ケアのなぜ？&どうする？
2019年9月号第35巻11号P15、P16 2019年8月
- 参考文献※1 日本消化器病学会関連研究会 慢性便秘の診断・治療研究会
慢性便秘症診療ガイドラインP25 2017年10月



＜全国介護老人保健施設大会に参加して＞

新型コロナウイルスクラスターについて業務改善についての発表を聞かせていただきました。優和の里でも人手不足、コロナウィルスクラスター発生の経験があり、共感することが多く沢山の事を学ぶ事ができました。ここで得た事を業務に活かしていきたいです。

研修会報告

アフターコロナ研修会

今回の研修会は、二部構成で開催されました。午前の部では、新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院の感染管理認定看護師である目崎恵氏をお迎えして『新型コロナウイルス5類移行後の感染対策について』をご講義いただきました。目崎氏は、標準予防策の基礎をしっかりと作っておくことが大事であり、標準予防策をきちんと理解していれば、どのような場面で、どのような个人防护具を使用すれば良いのかが分かってくると仰っていました。他にも、擦式アルコールを使用した手指消毒の重要性や、病原体を伝播させないための消毒前の洗浄の必要性和消毒すべき施設設備の説明など盛りだくさんな内容で、感染症が一段と猛威を振るう冬期間に向けて、心構えができた講義となりました。

開催日：令和5年10月27日（金）
場所：ハードオフエコスタジアム新潟
参加施設：26施設
参加人数：48名

午後の部では、東京海上日動ベターライフサービス株式会社の岩永美穂氏をお迎えして『アフターコロナで問われるマナー向上の取り組み～「面会時のご家族目線」をケアの見直しに役立てよう～』をご講義いただきました。岩永氏の実際の体験談や具体例を交えての講義は、参加者から時折驚きや戸惑いの表情がみられ、それだけでなく笑いも交えながら楽しい講義をしていただきました。岩永氏は、コロナ禍によって外部の目が入らなくなり、無意識による「職場のわが家化」が起こったことがマナーの質の低下につながっていると仰っていました。それをどうやって改善していけば良いかを学ぶ場面では、ペアワークやグループワークを多く取り入れられ、マナーについて自信がない点を話し合ったり、座ったまま相手を見ずにする挨拶と立って相手の方を向いてする挨拶とを比べたり、「辛口身だしなみチェック」をしたりと、終始盛り上がっていました。

～参加者の声～

- ・ 午前の部、午後の部共に大変すばらしい内容でした。勤務先に伝達できるようにしたいと思います。
- ・ 久しぶりの対面研修で、とても細かく学ぶことができました。
- ・ 最後のグループワークでは、他施設の方の様々な意見を聞くことができて勉強になりました。

【午前の部 『新型コロナウイルス5類移行後の感染対策について』】



目崎 恵氏



質疑の時間では、会場から多くの質問が挙がりました



【午後の部 『アフターコロナで問われる マナー向上の取り組み』】



岩永 美穂氏



ペアで行う実技やグループワークを通じて学び合いました



アフターコロナ研修参加者アンケート

当研修を受講した動機について（複数回答可）

勉強したいと思っていたテーマだった	16	テーマを見て興味を持った	16
講師できめた	0	勤務先から受講するよう言われた	23
勤務先で感染症対策委員のため	1		

午前の部『新型コロナウイルス 5 類移行後の感染対策について』

期待以上の内容を学べた	21	期待どおりの内容を学べた	24
やや不満なところもあった	1	不満なところが多かった	0

午後の部『アフターコロナで問われる マナー向上の取り組みについて』

期待以上の内容を学べた	27	期待どおりの内容を学べた	17
やや不満なところもあった	2	不満なところが多かった	0

今後学んでみたいテーマ（複数回答可）

施設運営・経営	8	苦情処理・訴訟対策	11	災害対策・防犯対策	15
虐待防止	8	アセスメント・ケアプラン	4	リスクマネジメント	11
人材育成・マネジメント	19	その他（拘縮のある人の、褥瘡予防の体位変換など）			1

研修会報告

業務継続計画（BCP）セミナー

今年度はじめての研修会として、令和 5 年 9 月 20 日（水）業務継続計画（BCP）セミナーを開催しました。本研修は東京海上日動ベターライフサービス株式会社の吉川美智子氏を講師としてお招きし、45 施設 70 名の方が参加されました。

令和 6 年度より策定が義務化される業務継続計画（BCP）の策定手順について事例を紹介しながらご講演いただき、組織に浸透させる為の研修・訓練や実際に自然災害が起こった時の役割分担などご講義いただきました。実行性のある BCP 策定するにあたり、非常に為になるご講義でした。



講師プロフィール

吉川 美智子 氏（よしかわ みちこ）

東京海上日動ベターライフサービス(株)
管理部 課長
(介護支援専門員・社会福祉士・介護福祉士)



受講風景（米山爽風苑）



令和5年度新潟県介護老人保健施設協会 介護米百俵基金永年勤続表彰

例年、新潟県老人保健施設大会にて表彰をしておりますが、新潟県大会が中止となった為、表彰状及び記念品を送付いたしました。

今年度の対象者は43施設222名が受賞されています。

令和6年度「新潟県介護老人保健施設大会」開催のお知らせ

開催日時：令和6年12月20日（金） 午前10時より（予定）

会場：新潟ユニゾンプラザ

参加受付：令和6年7月中旬より参加受付開始予定

第35回全国介護老人保健施設大会（岐阜）

再び、地域が動く
～多様性を包摂する老健と
さらなる共進（共鳴・共生進化）を～

令和6年11月14日（木）～ 令和6年11月15日（金）
長良川国際会議場 他



研修会予定

ノーリフティング研修会

日時 **前期** 令和6年2月頃～（オンデマンド配信）

一般社団法人 ナチュラルハートフルケアネットワーク代表 下元 佳子氏
ノーリフティングマネジメントの総論

各福祉用具メーカー様による福祉用具の紹介

後期 令和6年2月24日（土）新潟ユニゾンプラザ 大研修室

下元 佳子氏 ご講義

会員施設の実践報告、福祉用具体験、意見交換など

研修会予定

介護報酬改定研修（仮）

日時 令和6年3月頃（オンデマンド配信）

笑顔になるクラブ活動を

しんあい園
介護士 杉山 ひろみ

利用者様の笑顔がいっぱい、そして楽しい、嬉しいと感じていただけるクラブ活動をしんあい園では行っています。その活動の一つに「おしゃれを楽しもう!」という企画があります。女性の利用者様を対象にマニキュアをしておしゃれを楽しんでいただく活動になります。最近では爪にシールを貼るだけで簡単にマニキュアを楽しめるキットがあります。まずは何種類もあるシールの中から好きな柄や色を選びスタッフのアドバイスや手を借りて爪に貼っていきます。「これもいいわね!」「この色素敵ね」「これが似合いますね」と利用者様同士やスタッフを交え楽しく和気あいあいと行っています。皆さんの指先が色とりどりに素敵になっていく様子を見て女性はいくつになってもおしゃれは楽しく、また楽しみたい気持ちがある事が伝わってきます。そして利用者様とスタッフが笑顔でとても楽しい時間を共有できます。一人の女性が退所される日、一つの爪のマニキュアシールが剥がれてしまったので貼り直してほしいとご希望があり貼って差し上げました。とても嬉しそうに「お守りみたいだね」の一言と笑顔のお返しをいただきました。これからも日々の生活に少しの変化や彩を加えることで利用者様、そして一緒に行うスタッフも笑顔で楽しめる活動の時間を増やしていけたらと思います。



楽しく健康寿命を延ばそう!

清流苑
作業療法士 上村 英利子

清流苑は一般棟47名、認知症専門棟46名の計93名の方が入所されております。入所者様の半数は超高齢であり認知症を患っている方もいらっしゃいます。最高年長者様は102歳です。まだまだお元気で週2回のリハビリを意欲的に楽しまれ参加されております。リハビリでは「生活の中に張り合いを持って過ごして頂きたい。そして、その方らしさを尊重し健康寿命を延ばしたい。」と考えプログラムに脳トレを取り入れております。活動内容は楽しく脳活性化をモットーに体操や歌、歌体操を取り入れた集団活動や、集中して取り組める積木パズルや四季折々の行事が絵になった絵合わせカード等の卓上の活動を提供しています。人気のある活動は歌体操。童謡や流行歌に合わせて体を動かしたり、時には歌がメインとなりカラオケから大合唱となり、「あっという間に時間が過ぎた」との声も聞かれます。

これからも、「いくつになっても楽しみを持ちその方らしさを失わずに過ごしてほしい。」を目標にリハビリスタッフ一丸となり楽しめる脳トレを提供し、楽しく健康寿命を延ばして頂きたいと思います。



個別活動

関川愛広苑

理学療法士 小田 理佳子

関川村にある関川愛広苑は令和4年、豪雨や豪雪に見まれ、自然災害の恐ろしさを経験しました。また、それ以前より新型コロナウイルスの流行もあり、外出や面会制限、行事の縮小化など生活の楽しみが失われつつありました。

そこでご利用者様個々のしたいことや楽しみに寄り添える時間を過ごそうと「個別活動」を行ってきました。自宅周りを見に行きたい、ドライブに行きたい、お寿司を食べたい、足湯をしたいなど…担当の介護士がご利用者様の希望を確認し、希望をか



なえるべく感染対策をしながら、一緒に活動しています。

ご利用者様からは「久しぶりに外出できて気分転換になった」や「好きなものが食べられてよかった」などの嬉しい反応があり、その話を聞いたご家族様からも感謝の言葉をいただいています。

情勢により著しく生活変化がありましたが、新たな活動への取り組みはご利用者様の楽しみだけでなく、職員もご利用者様のことを知り、考える良い機会となっています。



高田の郷の 楽しいリハビリをご紹介します

高田の郷

介護福祉士 竹原 直也

高田の郷通所リハビリテーションでは、専門的なリハビリやマシントレーニングの他、IADLに対応したアイデア満載のトレーニングを行っています。今回はその一部をご紹介します。

一つは、雪国ならではの、雪かきトレーニングです。

雪かきは体力アップ、筋力増強にもってこい！スコップで雪かきをする動作は、胸や足、腹、背中などたくさんの部位や筋肉が使われています。雪かきの動作を利用して、楽しく筋力やバランスのトレーニングを行っています。皆さん、さすが雪国育ち。スコップ使いはお手のもの。

もう一つは、お買い物トレーニングです。

お買物をするときは、歩きながら、買い物リストをみて食材を探す。値段を計算する。手を伸ばしたり、屈んだりして買ってきた食材を冷蔵庫に仕分ける。こういった動作が筋力、バランス、認知



機能のトレーニングになります。また、

調理方法や味付けの話、それぞれのご家庭の話など話題も豊富にできるため、皆さんのコミュニケーションの場にもなっています。

他にも、「詐欺にご注意！電話対応」や「ごみ出しに行こう」など日常生活動作に対応した楽しいトレーニングが盛りだくさん。

高田の郷に通って、楽しみながらリハビリに取り組んで頂き、いつまでもご自宅で元気に過ごして頂きたいと思います。



「やりがい・いきがい・褒められたい」 ～新たな発見 塗り絵からの学び～

桃李園

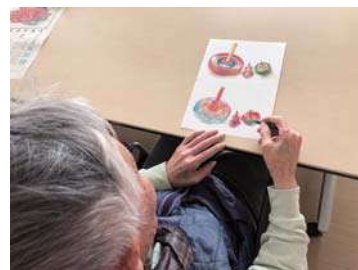
作業療法士 安藤 優子

今年度、「大人の塗り絵コンクール」への出品という初めての試みがありました。「塗り絵なんて…」と消極的だった方も、いつの間にか集中して取り組まれ、完成した作品を晴れ晴れとした表情で眺めている姿が印象的でした。また、あるご利用者は、「入賞するとは思っていませんが、職員の皆さんに褒めてもらいたくて一生懸命塗りました」と仰っていました。

実はこの塗り絵コンクールの話が来た当初、職員の多くは「どなたがしてくれるかな。これは難しい…」といった不安を抱いていました。しかし、意外な才能を開花させる方、高い集中力をみせてくれる方など、日を追うごとにご利用者の皆様の新たな一面が見えてきました。今回の試みは、様々な意味で職員の想像を遥かに超えるものとなりました。

ご利用者の皆様には、まだまだ多くの可能性があり、何が生きがいのきっかけになるのかわからないということを学ばせていただきました。そして、人はやはり「褒められる」ということはいくつになっても嬉しいことですし、それがこれからの活力になっていきます。このことは、職員に対しても同じことが言えます。一緒に働く仲間の良い所や感謝を伝えることで良好な関係が築いていけるものと考えます。

私たち桃李園職員は、ご利用者そしてご家族が「今日一日、良かった」と思っただけでいいことが増えるよう、多角的なアプローチで生きがい支援にも力を入れ、これからも皆様の可能性を広げていけるよう努めてまいります。



青空のもと、 Let`s Walking in てらどまり

てらどまり

理学療法士 霜田 梨香

当施設は国道116号線沿いの丘の上に建っています。施設に行くのに200mの坂を上っていかねばなりません。当通所リハビリでは、天気の良い日にその坂道を利用し、ご利用者の歩行練習を行っています。坂を下りた所に無人の野菜直売所があり、時々何があるか眺めたり、購入したりしています。また、施設の裏に通じる坂道もつながっており、その道の両側に栗の木が何本もあり、秋になると栗がたくさん落ちてきます。毎年、栗拾いを楽しみに歩行練習をされる方もいます。坂を上りながら、栗を拾うためにしゃがんだりする動作を何度も繰り返し、楽しみながら下肢の筋力トレーニングも行っています。その裏道は急で、上級者コースとなっています。その裏道を通してデイケアに戻ると1周400mとなります。地域の中で実際の活動に近い練習が出来ています。

また、屋内では施設内の廊下130mと、その先にある体育館1周46mを自主的に歩行練習されている方も多くいます。廊下には、10mごとに「デイケアから何m」と書かれた表示も貼ってあり、歩く方の目安になっています。廊下を歩かれる方は、来所時に万歩計を付け、その日の目標歩数を目指してwalkingに励まれています。



みんなの広場

しんあい園

季節ごとに壁飾りや、折り紙、季節の歌詞幕を飾っています。ご利用者の得意なこと、挑戦できそうなことに取り組んで頂き、それがひとつの作品として完成した時の「わー!!」の歓声と表情がうれしくてたまりません。



清流苑

清流苑では実りの秋、食欲の秋！大粒のぶどうや個性溢れるかぼちゃが秋を感じさせてくれています。「みんなで食べたいね。父ちゃんと食べたい！」と会話も弾みながら作品作りに取り組みました。



関川愛広苑

通所ご利用者様が苑に飾っている関川村の伝統民芸品の猫ちぐらを見て、自作の猫を入れてくださいました。猫の姿が可愛らしく、猫ちぐらの魅力を際立ててくれました。ご利用者の心遣いがとてもうれしかったです。



高田の郷

六月の花嫁プロジェクト
乙女心をくすぐるウエディングドレスの特大壁飾り（高さ二メートル超）を製作しました。三百を超えるお花をすべて手作りし、ふんわりドレスとブーケ、髪飾りを仕上げました。華麗な花嫁に心癒されました。



千歳園

通所リハビリをご利用の男性が、新潟県障害者芸術文化祭で表彰され、手のリハビリプログラムとして切り絵に取り組み、ハサミを使い創っています。現在では作品作りは自分の生きがいとなり、今回の作品は介護職員への感謝の思いを込められているとおっしゃられていました。



第二にいがた園

入所通所の利用者様がエコバッグを一から作り、通所の利用者様が様々な施設に納品しています。利用者様が地域社会とつながり続けるためのご支援です。すぐに完売するので見掛けたらお手に取って下さい(*´艸`)



桃李園

「今年は何年ですか？」毎年恒例干支の確認です。「子丑寅卯…」と呪文のように唱えながら新年を迎える壁画作りをしています。ここ数年はお花紙で貼り絵を行いました。さて令和6年は…？また「子丑寅卯…」唱えながら作った作品がこちらです。



てらどまり

通所リハビリご利用者のアクリル絵の具や水彩筆ペンを使用した鮭の塗り絵の作品です。言語リハビリでは、作品について工夫した点などを色々と説明してください。展示コーナーがあり、ご利用者や職員は、毎月の新作発表を楽しみに待っています。



編集後記

老健にいがた54号をお読みいただきましてありがとうございました。また原稿依頼に快く承諾いただきました皆様にも厚く御礼申し上げます。

今号でも取り上げました第34回全国介護老人保健施設大会や当協会主催のアフターコロナ研修会の他、ご利用者とご家族の面会方法の変化など、老健を取り巻く環境でも徐々にコロナ禍前のような人と人とが直接、接する温かさを実感する機会も増えてきたように思います。人と人とが繋がることでの喜び、生まれる活力、得られる学びが今後も増えていくことを期待するとともに、広報誌「老健にいがた」が皆様を繋ぐ一助になればと、広報委員会は活動して参ります。

今後も発行に際し、皆様からのご協力の程よろしくお願いいたします。

(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌

「老健にいがた」第54号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会
広報委員会

〒945-1392 新潟県柏崎市大字茨目字ニッ池2071番地1
介護老人保健施設米山爽風苑内
TEL (0257) 22-0111
FAX (0257) 22-0112

URL <http://niigata-rouken.org/>

印刷 有限会社フジプリント